



2021国際理解交流発表会



11月5日（金）に、年に一度の国際理解交流発表会が開催されました。

代表の生徒たちが、今年度取り組んだ様々な活動について成果発表をしました。

また、国際理解講演会では群馬県前橋市スポーツ課の方にお越しいただき、講演していただきました。

生徒発表

・SDGs Day

本校では毎月17日をSDGs Dayとしており、分別や節電などSDGs達成に向けた各月の取り組みについて発表しました。

・オリンピック・パラリンピック教育活動

本校はオリンピック・パラリンピック教育推進校として3年間様々なオリパラ教育を行ってきました。生徒たちがオリパラに関するアンケートなどを実施し回答をまとめました。



・クリアファイル・コンタクトレンズ回収活動



株式会社アポロガスさんのクリアファイル回収活動と、株式会社アイケアカンパニーさんの「ecoプロジェクト」コンタクトレンズ空ケース回収活動に参加しています。4月～9月の前期分の集計結果を発表しました。

・こわかネット活動

1ヶ月に1回、計6回にわたり放課後にこおりやま子ども若者ネットを開催しました。住みやすい街にするにはどのような課題があるかを見つけ、市役所などを訪問して解決策を考え発表しました。



・国際社会研究

国際社会研究の授業をとっている代表の生徒が、LGBTQについて多様な性があることや制度などについて自身の考えを述べました。

・留学生との交流

今年7月に帰国したコスタリカからの留学生セバスのホストファミリーだった生徒がセバスとの思い出や文化について発表しました。また、登校最終日に録画していたセバスの日本語での留学生活についての発表の動画を流しました。最後にサプライズで実際にコスタリカにいるセバスとzoomでつなぎ全校生徒と久しぶりの再会を果たしました。



・総合的な探究の時間 成果発表

3年生の代表者が、総合的な探究の時間に取り組んだ訪問診療の課題解決について発表しました。訪問診療の普及のため、実際に郡山市の病院に作成したチラシを置いていただき、多くの方に手に取っていただくことができました。

・サステイナブルスピリッツ

猪苗代湖清掃ボランティアや、福島県の名産や食材を使った料理作り、日本文化部の取り組みなどについて発表しました。

今夏に、本校生徒が福島中央テレビの「ブンケン歩いてゴミ拾いの旅」内でブンケンさんと猪苗代湖でゴミ拾いをし、テレビで放送されました。

そこで学んだことを生徒たちが紙芝居にし、国際理解交流発表会で読み聞かせを行いました。

またこの日は、サプライズで福島中央テレビさんとブンケンさんが来校し取材をしてくださいました。



希望のカケラ〜!!!

国際理解講演会

演題「オリンピックホストタウンとしての前橋市の取り組み」

講師 前橋市スポーツ課 萩野伸一 氏

群馬県前橋市は2020東京オリンピック・パラリンピックにおいて、南スーダンのホストタウンとなっていました。今回はその取り組みについて講演していただきました。



前橋市 人口約34万人（郡山市と同じくらいの人口）。面積は郡山市の約半分。赤城山や利根川など自然豊か。医療が充実しており、農業都市でもある。また、スポーツ施設が充実しており、ふるさと納税でプロのスポーツチームを支援している。

南スーダン 2011年7月、20年以上にわたる長い内戦の末に独立し「世界で一番新しい国」として誕生。未だ内戦や暴力により大勢の人が命を落としている。380万人以上が住まいを追われ、難民・国内避難民となって過酷な生活を強いられている現状は、「アフリカ最大の難民危機」と言われている。

前橋市がホストタウンとして南スーダンを受け入れた経緯

前橋市はハンガリーやベラルーシなどもホストタウンとして登録しており、スポーツ全般に力を入れています。JICA南スーダン事務所は、同国の支援策の一つとして「スポーツを通じた平和促進」を掲げています。そこで前橋市が自国でのトレーニング環境が整っていない南スーダン選手の2020東京オリンピック・パラリンピックを受け入れ、出場し活躍することにより「南スーダンの平和促進」に貢献できるのではないかと考えました。そして必要な資金を集めるため、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用し、2000万円以上が集まりました。

前橋市のホストタウンとしての4つの役割

- ①日本での基本的な生活スタイルやマナーの指導
 - ②各種交流事業の実施（幼稚園から高校までの学校訪問など）
 - ③競技指導者によるトレーニング指導
 - ④南スーダン選手団のスケジュール管理や広報PR活動
- （トレーニングだけでなく学校で日本語やパソコンの勉強も！）

自己ベスト更新で南スーダンナショナルレコード樹立！

ホストタウンの前橋市でトレーニングをしていたアブラハム選手は、2020東京オリンピックの陸上男子1500Mに出場し、予選敗退も自己ベストを更新し南スーダンのナショナルレコードを樹立しました。そのレース後、「日本での練習のおかげでこのレベルまで到達できた」と感謝しました。アブラハム選手は前橋市を「第二の故郷」と呼び、五輪の公式プロフィールに載った居住地は「MAEBASHI」。左手首に支援者から贈られたミサンガを巻いて走りました。